

- マツダ、「デミオ」「CX-3」「アクセラ」のディーゼル車のエンジンコントロールユニット(ECU)に不具合があるとしてリコール  
エンジンの保護制御が不適切な為、無負荷状態でアクセルを全開した際に燃焼異常が発生しても、エンジン保護機能が作動しないことが発覚。その為、燃焼異常により燃焼圧力が上昇し、最悪の場合、エンジンが破損する恐れがある。  
14年8月5日～17年10月30日に生産した15万8785台
- 日産自動車、「ジューク」のブレーキマスターシリンダに不具合があるとしてリコール 15年8月3日～17年12月11日に生産した1万4615台  
ブレーキブースター内部のスプリングが製造のバラツキを考慮した設計となっていなかった為、ピストンが傾いて押されカップシールとの摺動抵抗が高くなり、ブレーキペダルを速く踏みこんだ際にカップシールが捲れることがある。その為、シール部からブレーキブースター内部にブレーキ液が漏れ、そのままの状態で使用を続けると警告灯が点灯し、最悪の場合、制動力が低下する恐れがある。
- スバル、「インプレッサ」「レヴォーグ」「WRX」「XV」「フォレスター」「レガシィ」「エクシーガ」「BRZ」「86」の無資格者による完成車検査が行われたことを受けリコール  
17年10月4日～同年12月15日に生産した2万7066台

これら9車種については、車両製作工場の完成検査で、所定の教育を受けずに登用された完成検査員が合否判定を実施。道路運送車両の保安基準に関する検査が適切に行われていなかった。

- 三菱自動車、「RVR」のフロントワイパーに不具合があるとしてリコール 10年2月8日～16年4月1日に生産した3万2028台  
フロントワイパーモーターにおいて、フロントデッキ部の防水構造が不適切な為、フロントデッキガーニッシュとウインドシールドガラスの間から伝った水がワイパーモーターとワイパーリンクのジョイント部に侵入することにより、ジョイント部内部に錆が発生し異常摩耗を起こすことがある。その為、最悪の場合、ワイパーモーターとワイパーリンクのジョイント部が外れ、ワイパーが作動しなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、レクサス「RC F」「LC500」「GS F」の高圧燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 14年8月8日～17年12月14日に生産した4937台  
V型エンジンの左右シリンダバンクに配置された高圧燃料ポンプにて、ポンプが交互に噴射する際に発生する共振により、燃圧変動が想定外に大きくなり、バルブセッションダンパ(燃圧変動減衰器)の固定部が摺動して摩耗することがある。その為ダンパが損傷して異音や振動が発生し、そのままの状態で使用を続けると、最悪の場合、燃料漏れに至る恐れがある。
- 日野自動車、「レンジャー」のブレーキホイールシリンダピストンに不具合があるとしてリコール 15年2月5日～16年1月7日に生産した1万4549台  
又、交換修理用部品として出荷し、組み付けられた可能性がある1430台及び、組み付けられた車両が特定できない717個の部品についても対象。  
空気油圧複合式ブレーキにて、後輪用ホイールシリンダのピストンカップ溝の加工が不適切なものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ピストンカップの定期交換時期より早く、ピストンカップ溝とピストンカップ内径間のシール性能が低下し、後輪用ホイールシリンダよりブレーキ液が漏れる恐れがある。
- FCAジャパン、クライスラーグループのジープ「コンパス」「パトリオット」のエアバッグに不具合があるとしてリコール 10年1月11日～14年9月4日に輸入した7079台  
エアバッグコントロールユニットの電気ノイズに対する耐力が不足している為、衝突時にバッテリー配線が断線した際、断線の影響で生じる電気ノイズにより、ユニット内の電子基板が損傷することがある。その為、衝突時にエアバッグ及びシートベルトプリテンショナーが作動せず、最悪の場合、乗員が過度の傷害を負う恐れがある。
- UDトラックス、「クオン」のショックアブソーバ等に不具合があるとしてリコール 17年4月28日～18年2月15日に生産した3145台  
不具合箇所はショックアブソーバの他、前輪ブレーキチャンバと前前軸右側タイロッドエンドの計3か所。ショックアブソーバについては2017年9月15日付けで、タイロッドエンドについては同年12月14日付けでリコールを届け出ているが、新たな原因が判明した為、対象を拡大し届出した。  
ショックアブソーバについては、エアサスペンション仕様の車高調整装置装備車でピストン構造が不適切な事が判明。横力によってピストンとシリンダの接触面圧が過大となり、荷役作業時等で最大車高まで上昇させ下降する動作を繰り返すと、ピストンリング溝部で内壁を傷つけることがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ピストンリング部に金属片が溜まり固着して、曲りや折損が発生し、最悪の場合、タイヤと干渉してバーストまたは発熱により発火する恐れがある。前輪ブレーキチャンバについては、組付作業が不適切な為、プラグ(閉止栓)またはテストニップル及びブレーキホース接続部(ニップル及びホース接続ナット)の締付トルクが不足しているものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、プラグ等が緩みエア漏れが生じ、最悪の場合、脱落してエアが供給されず制動力が低下する恐れがある。前前軸右側タイロッドエンドについては、固定クランプ締付けボルトのメッキ前処理(酸洗い)工程が不適切な為、水素脆化によりボルトの強度が低下しているものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ボルトが破断してタイロッドエンド部にガタが生じ、最悪の場合、タイロッドチューブが破損して、操舵不能になる恐れがある。
- インガソール・ランド、日野「プロフィア」「レンジャー」・いすゞ「ギガ」「フォワード」・三菱ふそう「スーパーグレート」・UDトラックス「ビッグサム」「クオン」・東急「TF36H2C3」の冷蔵冷凍車用冷蔵冷凍装置に不具合があるとしてリコール

08年12月24日～17年6月21日に生産した1554台。その他、組み付けられた車両が特定できない731台の対象。  
冷蔵冷凍装置において、アンダーマウント冷凍ユニットの固定部の設計が不適切な為、固定部の強度が不足し、走行振動等により亀裂が生じることがある。その為、そのままの状態で使用を続けると亀裂が進行し、最悪の場合、固定部が破断して冷凍ユニットが脱落する恐れがある。

- フォルクスワーゲンジャパン及びアウディジャパン、VW「ゴルフ」等計18車種・アウディ「A3」等計4車種のABS/ESCコントロールユニットに不具合があるとしてリコール  
VWが08年6月30日～09年12月14日に輸入した1万9447台。アウディが08年8月20日～09年7月13日に輸入した3465台  
ABS/ESCコントロールユニットの耐久性の評価が不十分な為、エンジン熱などにより、基盤に組み付けられたICチップ(パワーコントロールユニット)に亀裂が生じることがある。その為、そのままの状態で使用を続けると亀裂が進展し、ICチップへの電源供給が断たれ、警告灯が点灯するとともに、ABSおよびESC(横滑り防止装置)が作動しない恐れがある。